

地域の小学校との連携による音楽授業と音楽活動の 活性化

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 志民, 一成, 松下, 允彦, 北山, 敦康 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7165

地域の小学校との連携による音楽授業と音楽活動の活性化

音楽教育講座 志民一成 松下允彦 北山敦康

1. 研究の目的

本研究は、平成 18 年度に静岡県音楽科指導力向上プログラム研究開発推進委員会が文部科学省の委嘱を受けた事業「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」の一環として開始し、委嘱が終了した平成 19 年度と平成 20 年度も継続しているものである。静岡県内の小学校と連携し、1) 連携授業と 2) 連携音楽活動の 2 つを軸として、小学校と大学とが連携した音楽教育の活性化を目指している。

2. 研究の内容（概要）

2. 1 連携授業

静岡市立森下小学校と連携し、プロジェクト担当者の指導学生（学校教育教員養成課程教科教育学専攻音楽教育専修 3・4 年生 17 名、研究科 1 年生 1 名）が小学校の音楽の授業に参加し、森下小学校の佐藤郁子教諭と担当教員の指導のもと、子どもの活動の支援を行った。



連携授業は「リズムを楽しもう」を題材とし設定し、10月23日、10月30日、11月13日、12月4日の4日間に渡って実施された。4年生71名の子ども達が、それぞれ自宅からバケツやお菓子の缶など、身の回りの良い音のするものを持ち寄り、グループに分かれリズム・アンサンブルを創作するという活動である。学生は数名ずつに分かれてグループに入り、創作のアドバイスをしたり、簡易楽譜

の書き方に付いて援助を行ったりした。

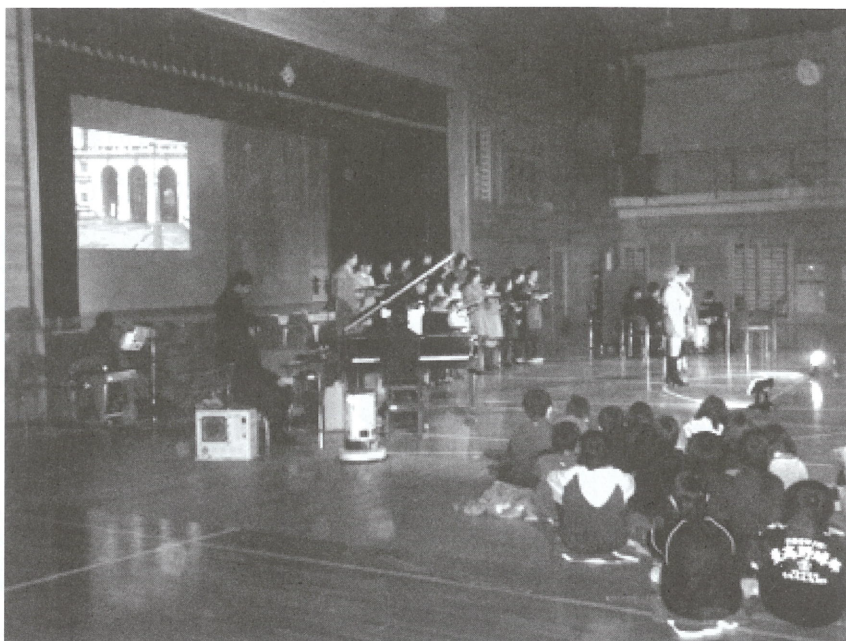
また、この活動と関連し、11月27日に静岡音楽館 AOI で行われた、ネブラスカ大学オマハ校のパーカッション・アンサンブルが出演する演奏会のリハーサルを子どもたちが見学した。



2. 2 連携音楽活動

「音楽科教育法 IV」の授業では、毎年、音楽劇や演奏会を企画し、地域の小学校などで訪問演奏を行っている。授業の目的は、学生が子どもの反応や活動の流れを想定しながらプログラムを考えることで、授業を組み立てる際の思考過程をシミュレーションすることである。

連携音楽活動に参加した学生は、学校教育教員養成課程教科教育学専攻音楽教育専修3・4年生17名、と、芸術文化課程音楽文化専攻3年生13名である。平成21年1月22日に森下小学校にて、2月5日に長田西小学校にて公演を行った。



今年度上演した「ハロー・スザンナ！」は、イギリスとアメリカの有名な民謡を織り込みながら展開して行く合唱劇である。

また、合唱劇の後、子ども達と一緒に歌う活動も行った。

↑ ←長田西小学校での公演の様。下は全校生徒および教員とともに歌った合唱。

3. 研究成果

連携授業に関しては、授業後のアンケートやレポートから、この授業が子ども達、学生ともに大きな刺激となったことが読み取れる。子ども達からも、「また一緒に学びたい」といった声があったようである。また、連携音楽活動では、鑑賞した子ども達から「歌がうまくなりたい」といった感想が多く寄せられ、今後の学習への意欲につながる貴重な機会になったと言えよう。

4. 今後の課題

授業や音楽活動で連携する小学校との関係をさらに密にして、より子ども達の普段の学びと深く関連づけた内容の授業や、音楽活動を模索していくことが、今後の課題となろう。